

The International Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies 報告書
山田麻里亜 (早稲田大学)

2020年2月28日(金)～29日(土)、ニューヨークのコロンビア大学にて、“International Symposium & Workshop in Japanese Literary & Visual Studies”と題した国際シンポジウム・ワークショップに参加しました。本イベントは早稲田大学とコロンビア大学の教員、学生を中心とするものですが、東京大学やスタンフォード大学など日米の複数の大学からも多くの研究者が参加しました。1日目は文学系の研究者、2日目は美術史系の研究者が各研究分野について発表を行い、発表後には英語と日本語を織り交ぜながら活発な議論が交わされました。

私は渡米するのも英語で発表をするのも初めてだったので、このシンポジウム・ワークショップを通じて大変貴重な経験をさせていただきました。発表を行うに際し、語学力が問われるのはもちろんのこと、そのやり方も細かい部分で異なる点が多く、英語をあまり得意としない私にとってはなかなかハードルが高いものでもありました。出発前に日本に滞在しているアメリカ人留学生や、英語で発表経験のあるゼミの先輩にアドバイスをいただきながら準備を進めました。初めての英語での発表はとても緊張しましたが、一緒に参加した学生たちと励まし合いながら無事に終えることができ、先生方や皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

外国に行って日本文化の研究発表をするというのは何だか不思議な気持ちもしましたが、現地の研究者の方々とお話をさせていただく中で、日本文化を外側から見ているからこそ分かることがあるのではないかと感じ、海外の研究者と意見を交わすことの重要性を認識しました。

またシンポジウム・ワークショップ終了後、メトロポリタン美術館などで作品調査をさせていただきました。日本では目にするのでできない貴重な作品の数々を間近に拝見し、とても貴重な時間を過ごすことができました。その他にも日本美術に関わる展覧会なども複数見学し、大変勉強させていただきました。

ここに書き切ることのできないくらい、盛り沢山で刺激的な1週間を終え、無事に帰国できましたこと、本イベントに携わった皆様に深く感謝申し上げます。この度の経験を研究者として活かしていくことができるよう、これからも研究活動に励んでいきたいと考えております。今後も早稲田大学とコロンビア大学、その他の諸大学との活発な交流がなされることを期待しております。